

■学校経営のポイント

子どもの多様性の把握と適切な配慮

小島 宏

子どもたちの多様性が注目されている。そこで、新年度の出発にあたり、子どもたちの多様性に対する学級経営や生徒指導、学習指導などにおける配慮・指導の在り方について、学校として組織的に考え、教職員で共有し、教育活動に生かしたい。

多様性の様相の把握

まず、自校の子どもたちの多様性の様相について把握する必要がある。その際、次のような側面から捉えるとわかりやすい。

- 基礎学力の定着状況、特異な能力
- 学習の仕方、学習意欲、考え方・仕方・感じ方
- 個性、特徴、興味・関心
- 基本的な生活習慣、規範意識、問題行動
- 保護者の経済的困窮、養育態度、児童虐待
- 悩みごと、不登校、いじめ・いじめ
- 身体的、知的、行動面で特別支援を要する子ども
- 外国人の子ども、日本語指導の必要な子ども

学級経営における安心・安全

子どもたちの学校生活の基盤である学級経営において、安心・安全につながる居場所、身体的・精神的な健康を保障することが重要である。

その意味で、学校の教育目標や校長の学校経営方針に基づいて、学級経営案に学級の目標、方針、方策の中核に「子どもたちの多様性への配慮・指導」を具体的に盛り込むようにしたい。

生徒指導におけるポイント

子どもたちの多様性の広がりや、生徒指導の難しさにもつながっている。

そこで、学校生活や学習のきまりについて、子どもたちや保護者にも参加をお願いして見直しを図り、自分事として捉え、理解し、守るようにさせたい。

また、いじめ、暴力、問題行動等についても、学級

活動や道徳科などで扱い、心情と行動の改善を図る。その際、良い点や善行なども紹介し、推奨したい。

なお、いじめ、虐待、悩みなどに関しては、相談活動を充実し、子どもたちや保護者の心に寄り添う温かい対応が効果的である。その際、専門職員や保護者、関係諸機関との協力、連携が不可欠である。

学習指導における配慮

学習指導では、主体的な学びや個別最適な学び、対話的な学びや協働的な学び、深い学びを関連的に進めるようにする。また、指導と評価の一体化を進め、子どもの学習状況や反応に丁寧に対応する。

その際、専門支援員や外部人材などと連携・協力して、きめ細やかな指導・支援に努める。

ICTの活用による工夫

個々の子どもの多様性に応じた学びを充実させるために、ICTやデジタル教材の活用、オンライン授業などの開発・工夫を積極的に進めたい。

特に、特別支援や個別指導を要する子どもの指導、不登校への対応、特異な能力を持つ子どもの個人学習などについても、十分に配慮する。

管理職のリーダーシップ

教職員は、子どもたちの多様性への対応に意欲をもち、指導の必要性は理解している。しかし、具体的にどのように行動したらよいか悩む教職員も多い。

そこで、子どもたちの多様性への具体的な配慮・指導・支援の仕方に関する情報や事例を紹介する。さらに、自校の教職員が工夫している例も紹介し自信を持たせるとともに、さらなる工夫・改善への意欲を喚起することも必要である。

なお、教育委員会とホウレンソウをして、環境整備を進めることも重要である。

(こじま・ひろし=元東京都立小学校長・(公財)豊島修練会理事長)

●学校に蔓延する「閉塞感」を打ち破る！ 《好評発売中！》

学校の未来はここから始まる ―学校を変える、本気の教育論議

木村泰子／工藤勇一／合田哲雄【著】 四六判／272頁／定価1,980円(税込)

■研修誌・図書の小社への直接のお申込みは、小社HP <https://www.kyouiku-kaihatu.co.jp>をご利用ください。

